

塩分摂取量 簡単に測定

医療機器開発の河野エムイー研究所(川崎市、河野英一社長)は、朝に採取した尿から一日の塩分摂取量が簡単に判断できる機器を開発した。四月から本格販売する。尿の量と濃度により、一日の塩分摂取量をほぼ推定できる。高血圧など生活習慣病の原因となる塩分の過剰摂取は食事から計算するのが一般的だが、算出が面倒だった。

開発した「減塩モニタ」は、横浜市立大学の枘久保

河野エムイー研が小型機器

修教授の研究を基にした。早朝の尿を全量カップに採取する。夜間に尿が出た場合はそれも残す。カップに付属した小型測定器が導電率を基に尿量と塩分濃度を測定し、前日のおおよその塩分摂取量をグラム単位で画面に表示する。

厳密な塩分摂取量の測定には一日すべての尿を残す必要があるが、日常生活では外出などで実行するのは難しい。枘久保教授は二百五十人分のデータに基づい

朝1回の尿で一日分算出

て、一日の塩分摂取量と夜間・早朝の尿の関連を調べた。この分析結果を装置に組み込み、摂取量を推定できるようにした。価格は三万円弱に設定する考えで、年間二千台の販売を見込む。

中高年向けの生活習慣病を予防する目的での利用を見込む。今後、医療機器メーカーと組んで、医療機器としての承認も取得したい考えた。

河野氏はNEC出身の技術者で、二〇〇二年に河野エムイー研究所を設立した。